

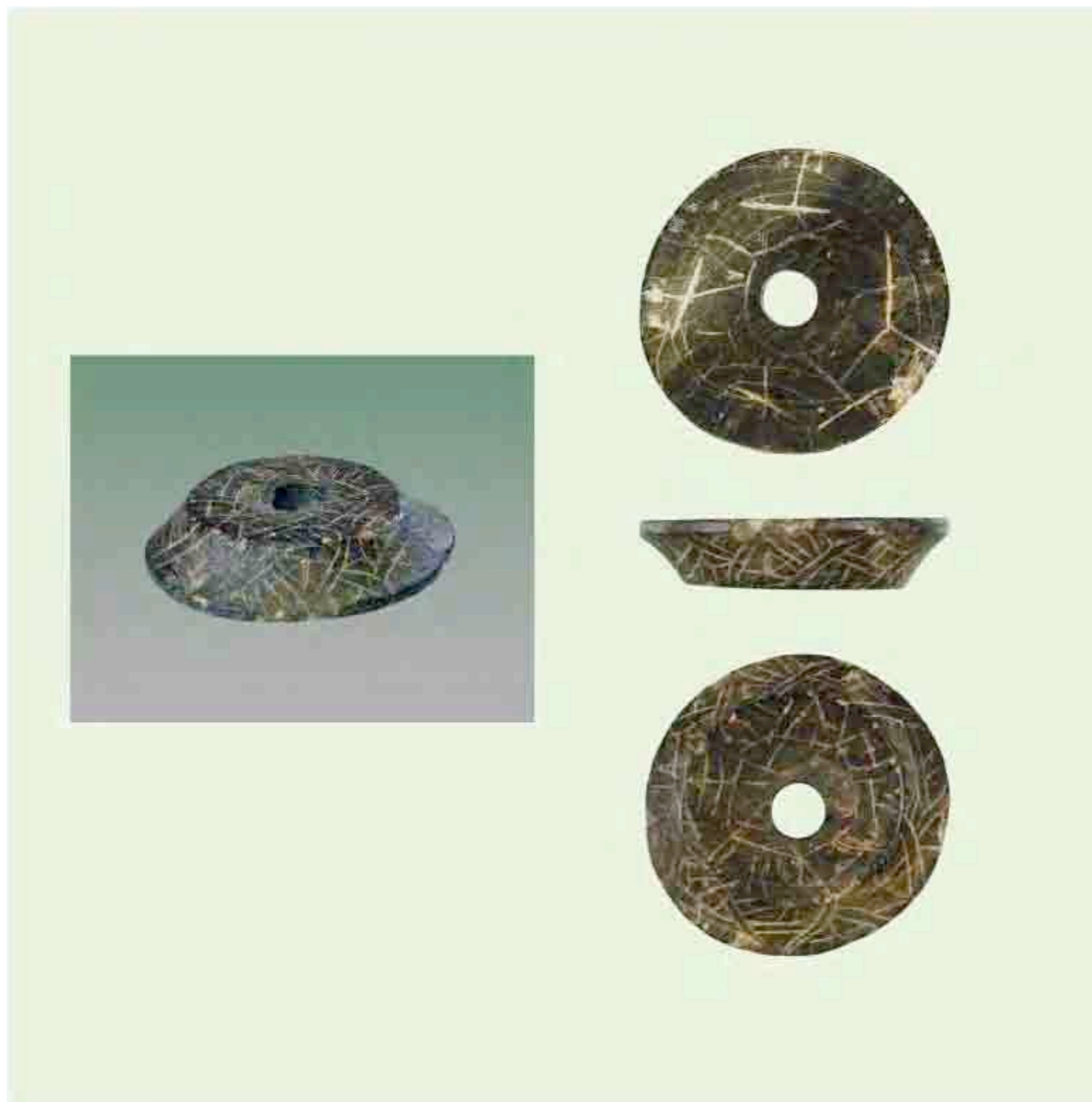
ごんげんやま
権現山遺跡

とうや
- 宇都宮市東谷地内 -

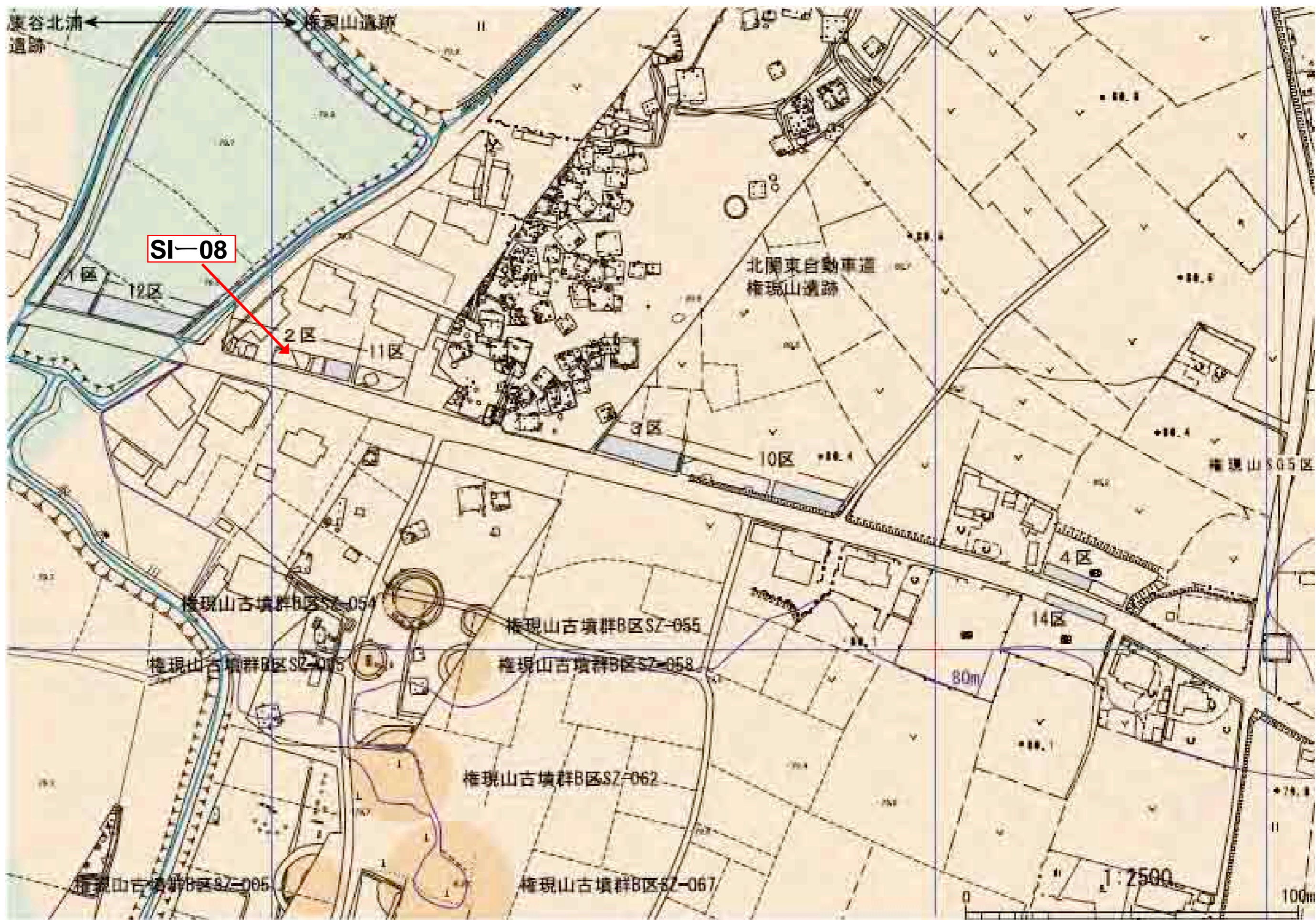
ここで紹介する権現山遺跡は、平成12・13年度に県道すずめのみやもおか雀宮真岡線の改良工事に先立って発掘調査が実施されました。道路の拡幅部分のみの調査のため、遺構の多くは全てを発掘することはできませんでしたが、調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡6軒のほか、土坑67基・溝跡7条などの遺構と、はじき土師器やすえき須恵器などの土器、まがたま勾玉・うすだま臼玉・ぼうすいしゃ紡錘車などのせきせいさいぐ石製祭具が発見されました。

ここに紹介する8号住居跡は、5世紀中頃（約1,650年前）のもので、たくさんのわん埴・たかつき高坏・かめ甕などの土器のほか、ちよっこもん直弧文という珍しい文様が描かれた紡錘車が出土しました。

権現山遺跡はこれまで、「インターパーク宇都宮南」や北関東自動車道の建設に伴う発掘調査で、古墳時代のしゅちょうきょかんあと首長居館跡のほか、たくさんの竪穴住居跡（387軒）・ほったてばしらたてもものあと掘立柱建物跡（14棟）・古墳（10基）などが発見されています。また、周辺には大形前方後円墳のささづか笹塚古墳（墳長100m）をはじめ大小えんぷん円墳が群在しており、どうめき百目鬼遺跡・すぎむら杉村遺跡・いそおか磯岡遺跡・たての立野遺跡などの集落跡も確認されていることから、古墳時代中期の社会を考える上で、モデルケースとなりうる地域です。



権現山遺跡調査2 区8 号住居跡出土 直弧文線刻紡錘車



権現山遺跡 調査区位置と周辺の古墳

コラム



特別な道具

権現山遺跡の住居跡（SI-08）からは、直弧文ちよくまもんと言う特別な模様もようをつけた糸つむぎの道具が出土しました。道具は繊維に縀りしつどをかける時の弾み車はすくるま（紡錘車）で、石を材料に作られています。

模様もようは石に彫られたもので、魔除けなどの意味があると言われていいます。奈良時代には布を神様に捧げる儀式があります。その前の時代にも、この神聖な紡錘車しんせいぼうすいしゃに巻かれた糸が、神前に捧げられたのかも知れません。



直弧文線刻紡錘車出土状況



遺跡遠景(北東上空から、平成11年度撮影)